St.Mary's College Campus Letter

MADONNA

聖マリア学院大学キャンパスレター［マドンナ］

特集

・卒業・修了によせて
・コロナ禍における学生支援

Vol.
25
2022.3

春に桜咲くことを大地は忘れていない

人類はこの2年間に亘り、新型コロナ・ウイルスの驚異に苛まされている。この極めて小さな生物であるウイルスの逆襲による災害は、一体何時まで続くのかと不安を抱く方もあるのではなかろうか。禍と冠された災害、コロナ禍である。片や巨大な災害と言えば、我々日本人は11年前に経験した。地球の持つエネルギーによって引き起こされた大地震である自然災害の東日本大震災の記憶はまだ新しい。当時、ほとんどの日本人は、大地震に起因する想像を絶する大津波による未曾有の災害に酷く打ちのめされたのではないかと思う。その自然災害に加えて、原子力発電所の炉心溶融という原子力災害までもたらして、長期の災害の影響を残してしまった。正直言って私も、報道による津波の映像等を見るに至って、この自然災害や原子力災害に対し、フラッシュ・バックの様な心も冷える恐ろしさを感じた。後日、本学を訪れた韓国カトリック看護大学の先生方も、編集された津波のビデオを見るに至り皆涙された。

東日本大震災発生に際しては、聖マリア病院は陸前高田市に支援拠点を設け職員を派遣し組織的支援を始めた。本学の看護教員も同行した。まだ余震があり、東北の地で3月の冷たい風雪の中という厳しい条件下にも拘わらず、初期対応から、復興後を見据えた準備の構築を組織的に行うことが出来たとの報告を受けた。聖マリア病院では半年間の支援後に撤収したが、本学ではその後も毎年学生ボランティアを派遣している。春を迎え、新年度が始まる折に、全教職員の前で、任務を終え帰任した派遣教員一同の報告がなされた。察するに、報告をする教員の脳裏にはまだ明らかに、悲惨な陸前高田市の光景が残っている表情であった。この未曾有の災害から立ち直る為に、次のフレーズを皆に呼びかけた憶えがある。**春に桜咲くことを大地は忘れていない。**我々の復興の力ともなる自然の桜の開花である。

コロナ禍も2年目の春を迎えた。大地は忘れずに今年も桜咲かせる。百年前の、所謂スペイン風邪と呼ばれた、新型インフルエンザのパンデミックによる災害の封じ込めと同様、このコロナ禍の終息も為し得る。ウイルスも生物であるから生き抜こうとして変異を繰り返す。しかし、人類は数段どころか数限りなく進化した生物である。多少の時間を要しても、ウイルスの逆襲である今回の災害を乗り越えることが出来る。直面しているこの災害、コロナ禍の最前線に立つのは保健医療従事者である我々です。この災害に向かって人類の為に心して頑張りましょう。

学長　井手 三郎

目次

1 巻頭言
春に桜咲くことを大地は忘れていない

2 特集1
卒業・修了によせて

3 特集2
コロナ禍における学生支援

4 CAMPUS TOPICS
- 令和3年度特待生表彰式が開催されました
- 看護の道を歩む決意を新たに
- 教育懇談会・個別面談を実施しました
- 特待奨学金制度（新入生向け）が大幅に拡充されます！
- 本学大学院に現役進学する4年生の方への奨学金を新設します！
- コロナ禍の今こそ楽しくオンライン開催の学院祭
- オンライン「クリスマスのつどい」を開催しました
- Withコロナ時代の聖マリア学院大学の地域貢献活動

5 お知らせ
- 令和3年度科学研究費助成事業　採択者一覧

マドンナ MADONNA Vol.25

聖マリア学院大学の教育理念

聖マリア学院大学は、「カトリックの愛の精神」に基づく教育・研究を行って、豊かな人間性と深い教養を具え、高度の看護知識と技術に基づく科学的な看護実践能力を養い、広く人間社会の健康に寄与できる篤実有能な人材を育成することを目的としています。

聖マリア学院大学の教育の特色

- 「人間の尊厳・生命を尊重する倫理、生命倫理教育」による倫理的判断能力／専門職としてのケアリング／ヒューマンケアの実践能力の育成
- シスター・カリスタ・ロイ博士提唱の「ロイ適応看護モデル」に基づく科学的思考と問題解決能力の育成
- 聖マリア病院とともに長年の国際保健医療協力に連携して実践している「国際看護学」の教育

特集
1

卒業・修了によせて

学長
井手 三郎

Our St. Mary's Heritageの恵み

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。卒業あるいは修了までの間に、皆さんは聖マリアのキャンパスのあちらこちらに足を運ばれたと思います。聖マリアのキャンパスには何処にでもマリア様の像がありましたね。雪の聖母聖堂やルルドも…。そして、学内にはミゼリコルディアの鐘がありました。卒業後も、皆さんはこれら聖マリアのHeritageのそれぞれをくっきりと思い出せることでしょう。

社会に出た今からは、保健医療の数々の場面で、時には挫けそうになるかも知れません。

その時は、聖マリアのキャンパスのSt. Mary's Heritage、そう、マリア様を思い出してください。きっと力になってもらえます！

看護学部長
日高 艶子

皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの大学生活の後半は、コロナ禍においてさまざまな行動の制限を余儀なくされましたが、多くの刺激に柔軟に対処され、卒業の日を迎えられました。世界中が不安定で人々の健康が脅かされているこの時代に、皆さんは、聖マリア学院大学でキリスト教的人間観を哲学的前提とするロイ適応看護モデルに基づき、人間の苦しみや適応、そして人々の環境への適応の促進者について探求してこられました。

環境への適応が困難な今こそ、ロイ適応看護モデルに基づき、人間の本質ともいえる他者へ向かう愛の実践が求められているのではないでしょうか。他者のために、誰かのために何かできることは、自らの喜びとなり、それはきっと皆さんを成熟へと導くことでしょう。

大学から皆さんの姿が消え、学生不在の大学は無意味な箱と化し、キャンパスには空虚な時間が流れました。大学はさまざまな学生の顔や姿があることによって初めて息をし、生きているのだと強く感じました。皆さん一人ひとりの存在に感謝すると共に社会の中で皆さんが変革のリーダーとして活躍されることを期待いたします。

学院長
井手 信

「起きよ、光を放て」イザヤ書60－1

聖マリア学院大学看護学部の卒業生、専攻科助産学専攻の修了生、大学院の修了生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

皆様に贈る言葉として、旧約聖書イザヤ書60－1の「起きよ、光を放て」を送りたいと思います。フランシスコ教皇は若者に対する期待の言葉としてこの言葉をよく引用しておられます。コロナ禍の真っただ中に人生の新たな一歩を踏み出される皆様は卒業の大きな喜びと同時にいつ開けるとも知れないコロナ禍の闇の中でひとり不安に思う方もおられると思います。コロナ禍において世界中のすべての人々が苦しみ、私たちは人間としての脆弱性を実感しています。しかし、私たちよりももっともっと苦しんでおられる方たちのために私たちは立ち上がらなければならないのです。今一番必要なのは「カトリックの愛の精神」です。皆様方は「ロイ適応看護モデル」で愛の精神をどのように社会の中に具現化、実践して行くのかを学びましたね。今こそ本学の卒業生が社会に求められる時、と私は確信しています。卒業生の皆さん！ 起きよ！ 光を放て！

卒業生の皆様の今後のご活躍をお祈りしています。ご卒業、おめでとうございます。

研究科長
眞﨑 直子

修了生の皆様、ご卒業おめでとうございます。少子高齢化の進展や医療技術の高度化、在宅医療への移行など、医療を取り巻く環境が大きく変化している中、病院や地域において質の高い看護サービスへのニーズが高まっています。こうした社会的背景に加え、皆様の大学院での生活は、COVID-19による世界的パンデミックの状況で、大変ご苦労が多かったことと拝察します。皆様は、その苦難を乗り越えられ、無事修了を迎えられました。今、皆様は、広い視野に立った科学的方法論に基づく学識を修得され、看護分野における研究能力や高度な専門性など看護に必要な能力を養う学びを得られ、新たな第一歩を踏み出されます。これからは、その学び得たものを周囲の実践者、これから学んでいく若い学生などへ伝え、広めていくことを期待しています。大学院で培った看護の実践知や経験知の理論化・可視化の歩みを止めず、持続していきましょう。また、自らも新たな教育方法開発や研究課題へのチャレンジに臨んでください。人生において、毎日が学びの連続です。大学院での教員や大学院生との出会いは一生の財産になります。この仲間との「つながり」を宝に一日一日の積み重ねを大切に自らの信じる道を進まれることを心より願っております。そして、時には大学院の門をたたき、いつでも学びに戻って来られることをお待ちしています。

コロナ禍における学生支援

学生部長　崎田 マユミ・学生課長　高木 由香

聖マリア学院大学全体の学生支援策としては、本学の理念に基づいたもので〝一人ひとりの学生の個性と多様性に寄り添う支援〟を目標に学生支援に取り組んでいます。コロナ禍における学生支援は、この大学全体の取り組みの一環として実践されています。今回はコロナ禍における学生支援のなかから、個別支援として〝チューター制の取り組み〟と組織的支援として〝学生支援センターの取り組み〟についてご報告させていただきます。

看護大学である聖マリア学院大学においても、新型コロナウィルス感染拡大の影響により、感染防止策を徹底するものとしてオンラインと対面を組み合わせた講義演習が長期化してきました。学生委員会が2021年10月に全学生を対象に実施した学生アンケートの結果からは、〝生活リズムが安定していない25%〟、〝経済状況にやや不安がある20%〟、〝あまり眠れていない12%〟、〝気分が落ち込むことがよくある4%〟、等、学生生活上の課題が浮かび上がり、個別性に応じた学生支援の重要性が示されました。

個別性に応じた学生支援として、まず、本学が継続して実践している学生支援策であるチューター制の取り組みを紹介させて頂きます。チューター制とは、学生の皆さんが充実した学生生活を送ることができるよう、一人ひとりに〝チューター〟という教員が配置され、ニーズに応じて個別支援を行うしくみのことを指しています。特に、コロナ禍においては、チューター教員は、学生の皆さんの最初の相談窓口となり、日常の学修や生活や進路などについて対面とオンラインを活用して定期的に面談を行い、学修、進路、健康面の個々の状況に応じた支援を行っております。

つぎに、組織的支援として、学生支援センターの取り組みについて紹介させて頂きます。

学生支援センターは、学生の皆さんの学修及び学生生活を支援するための専門組織として、2019年4月に設置されました。学生支援センターは、「学修支援、学生生活支援、キャリア支援、インクルーシブ教育支援」の各部門により、学生の皆さんの個々の状況に応じた支援を行っております。

コロナ禍においては、オンラインを活用した、個別学修支援、グループ学修支援、補習講義、個別面談、ピアサポート、各種キャリアガイダンス、オンライン交流会、オンライン相談会などを実施し、学生生活の充実・安定のため、また、コロナ禍におけるメンタルヘルス支援のための取り組みを実施いたしました。

今後も引き続き、看護職を目指す学生の皆さんの、学び、人間的成長、キャリア形成に繋がるよう、学生支援に関しても、一人ひとりの学生の個性と多様性に寄り添う支援環境づくりを目指し取り組んでまいります。

コロナ禍における学修支援 ～授業編～

教務部長　桃井 雅子・教務課長　池田 展子

授業方法の基本的な考え方

新型コロナウイルス感染症収束の見通しが定まらない中、本学は年度当初、対面授業と遠隔授業の併用でスタートしましたが、学生の皆さんの安全確保と教育の機会の確保を両立できるよう、感染状況都度の変更ではなく中期的な基本方針に基づく授業への対応をとることとしました。その結果、前期授業（4月～8月上旬頃まで）は原則として遠隔授業にて行い、8月中旬以降～後期授業は遠隔と対面授業の併用で実施しました。但し、何れの期間においても、授業の特性を十分に考慮し、看護に関わる技能の演習など、対面が必要とされる授業については感染対策を万全に行った上で対面で実施しました。

授業方法の実際

対面授業の場合は分散登校・分散教室を基本とし、より教育効果（学修効果）が得られるように科目担当者において授業方法を工夫しながら進めてきました。

遠隔授業では、ZoomやTeams、WebCLASS等の教育ツールを利用、オンデマンド型の遠隔授業よりも決められた時間割に沿ってライブ配信にて授業を進める方法を多くの科目で採用し、できる限り、リアルタイムで教員と双方向のやりとりが可能となる環境を提供しました。

学修支援

これまでも様々な形で学修支援を行ってきましたが、コロナ禍という特殊な環境下においてはより丁寧な支援が必要と考えています。学内の「学生支援センター・学修支援部門」と連携しながら、学修に不安を抱える学生さんへの個別のフォローをしています。また、特に低学年次において多くの学生が不得手とする解剖生理学・病態学の科目は、それに続く看護専門科目を学修する上で必須の内容であることから、よりきめ細やかな学修フォローを実施、学内の担当教職員間で情報共有をしながら必要と考えられる支援を継続的に実施しています。

臨床看護学実習

本学では、臨床実習は、看護学を学ぶ上で何ものにも代えがたい重要な機会であると考え、可能な限り臨地で行うこととしています。よって、実習のスケジュールが年度内の後半に移動してもカリキュラム運営上、支障が無いと判断した場合は一時実習を中断し、その期間は看護研究や国家試験対策の学修時間に充て、臨地実習が再開されるまでの期間を有効に活用します。一方、履修時間が不足する等、カリキュラム上、実習スケジュールの変更が難しいと判断した場合は、学内における実習に切り替えます。

学内で実習を行う場合は、より臨床に近似したリアルな状況を設定するために、教育上の創意工夫（患者シミュレータを活用する等）を実施しています。加えて、臨床スタッフ（看護師・助産師・医師等の臨床実践者）の理解・協力を得ながら、臨地実習と同等の教育効果が得られるよう実習方法を常に模索し、教育の質向上に努めています。

実習は講義や演習と異なり、大学側の希望・計画のみで実施できるものではなく、実習施設との連携・協同が必須であり、臨地実習が可能かどうかの判断は、感染状況を踏まえ、都度、実習施設と協議の上決定しています。

本学では、設立理念を共有する聖マリア病院と常日頃から教育について密な連携を図っており、コロナ禍においても平時の教育が継続できるように、互いの教育に関する意見・要望を交わしながら「カトリックの愛の精神」を具現できる看護者育成を目指して、今後も、より質の高い教育の創造を目指して協議を重ね続けてまいります。

特待生表彰式

令和3年度 特待生表彰式が開催されました

令和3年10月14日（木）及び10月18日（月）に特待生表彰式が開催されました。今年度は看護学部1年生から4年生までの9名が選出され、表彰式では、井手三郎学長より、ひとりひとりに賞状ならびにお祝いと激励のことばが贈られました。特待生からは、謝辞と今後の抱負が語られ、これからの学びへの気持ちを新たにした様子がうかがえました。

召命のつどい

看護の道を歩む決意を新たに

「いのちの奉仕者」へと招かれている人々、特に4月に入学した看護学部1年生とともに、1年生のために祈るひとときを本学では「召命のつどい」と名付け、毎年10月に執り行っています。新型コロナウイルス感染症の影響で今年度もオンラインでの開催となりましたが、後期初日である10月1日に看護学部1年生110名全員が揃い、自分がいただいている命の恵みに感謝するとともに、他者のために自分を生かす「カトリックの愛の精神」のもと看護の道を心新たに歩み始めました。

教育懇談会

教育懇談会・個別面談を実施しました

令和3年12月19日（日）、約50名の保護者の皆さまにご参加いただき、教育懇談会を開催しました。懇談会では、全体説明会で本学の教育や学生支援についての取組、新型コロナウイルス感染症対応等について報告させていただいた後、ご希望の保護者の皆さまには、学生さんの修学状況、今後の進路などについて個別面談を実施しました。

修学支援制度

特待奨学金制度（新入生向け）が大幅に拡充されます！

［申請資格］
令和4年度の一般選抜を受験し、特待奨学生として採用された場合、必ず入学を確約できる者。

［採用候補者数］
10名程度

［給付金額・期間］
給付金額：年間20万円
給付期間：4年間　計80万円

［給付方法］
後期授業料より減免

入学後の成績が優秀な場合は、在学生向けの特待奨学金と重複受給することができます（半期授業料相当額、または半期授業料相当額の半額:1年間）。

●1年次に優秀な学内成績を収めた場合（首席）の支給（免除）金額例:
20万円（新入生特待）＋68万円（在学生特待）＝88万円

※学校推薦型選抜等で合格し入学手続きを完了している場合は、一般選抜を受験しても対象とはなりません。　※本奨学金を申請して合格した場合でも、一般選抜の得点状況によっては特待奨学生として採用されない場合があります。
※特待奨学生に相応しくないと判断される事由が生じたときには、資格を喪失し、奨学金の返還を求めることがあります。

お問い合わせ先／聖マリア学院大学 入試事務室　TEL 0120-35-7271（入試専用）

学院祭

コロナ禍の今こそ楽しく オンライン開催の学院祭

2021年11月13日に学院祭が開催されました。今年のテーマは「Light～みんなの光～」を選び、コロナ禍で先の見えない時に楽しみを通して頑張っていこう、という意味を込めました。学内限定のオンライン開催で、1年生と2年生の交流会、クイズ大会、聖歌紹介、ボランティア報告会、フィールドスタディ報告会、興味分野別発表会を企画し親睦を深めました。

参加者からは「普段できない交流やボランティア活動の話を聴き貴重な経験ができた」など多くの感想が寄せられました。皆さんに楽しんで貰えるよう、マリア祭実行委員総出で趣向を凝らし準備した経験から成長できる機会を頂いたと感じ、次年度に繋いでいきたいと考えています。

実行委員長　丹生、柱

クリスマス

オンライン「クリスマスのつどい」を開催しました

聖マリア病院をはじめ聖マリアグループでは、合同クリスマス祭として、病棟でのキャンドルサービス等で毎年クリスマスのお祝いをしていますが、新型コロナウイルス（COVID-19）の影響で対面の実施が困難となっています。そのような状況の中、本学学生やグループ施設の方にお集まり頂き、オンライン「クリスマスのつどい」を12月25日に開催しました。

この会ではクリスマスの思い出等を分かち合い、本学卒業生、聖マリア病院スタッフや聖マリア病院チャプレンであるジュゼッペ神父様からのクリスマスメッセージを拝聴したのち、神父様から「派遣の祝福」をいただき、終了となりました。

クリスマスの喜びは、インマヌエル、わたしたちとともにおられる神を迎えた喜びです。参加された方々を通して、世界中のすべての人にこの喜びが広がっていきますよう願っております。

本学大学院に現役進学する4年生の方への奨学金を新設します！

［受給資格］
3年生までの必修科目GPAが3.0以上、もしくは卒業時までの必修科目GPAが3.0以上の者。

［支給金額］
年間授業料の半額

［支給期間］
修業年限（通常2年間）

学納金 本学出身者 通常	区分	入学時納入金※	後期納入金	次年度以降納入金（年額）
	入学金	——	——	——
	授業料	425,000円	425,000円	850,000円
	施設設備費	100,000円	100,000円	200,000円
	合計	525,000円	525,000円	1,050,000円

学納金 奨学金 適用後	区分	入学時納入金※	後期納入金	次年度以降納入金（年額）
	入学金	——	——	——
	授業料	425,000円	——	425,000円
	施設設備費	100,000円	100,000円	200,000円
	合計	525,000円	100,000円	625,000円

※本学出身者は入学金が免除となります。

お問い合わせ先／聖マリア学院大学 入試事務室　TEL 0942-35-7271（代表）

令和3年度　科学研究費助成事業　採択者一覧

本学では、教育への還元を前提とした各専門領域における学術研究推進方策の一環として外部研究資金の獲得を推奨しているところです。令和3年度の外部研究費（科学研究費助成事業）に関する採択状況については下記のとおりです。

○研究代表

研究種目［12件］	研究課題名	代表者名
基盤研究C	自然災害を体験した炎症性腸疾患患者の支援モデルの開発	谷口あけみ
基盤研究C	高齢者の介護購買力が家族介護者の仕事と生活に与える影響	本田歩美
基盤研究C	看護基礎教育におけるソーシャルスキル獲得のための段階的教育プログラムの開発	石本祥子
基盤研究C	ウガンダ難民定住地における女性を対象とした暴力の実態調査	秦野環
基盤研究C	若年女性の妊孕性に関する意思決定支援に向けた看護基礎教育プログラムの開発	桃井雅子
基盤研究C	自己イメージに焦点を当てた支援プログラムが中堅前期看護師の看護実践力に及ぼす影響	鶴田明美
基盤研究C	自発性を賦活させる熟練看護師の看護実践を支える暗黙知の解明	小浜さつき
基盤研究C	都市型準限界集落のソーシャルキャピタルコーディネーター育成プログラム開発と評価	眞﨑直子
若手研究B	介護老人福祉施設におけるPDアプローチによる感染対策効果の検討	渋江暁春
若手研究	多様性をいかす病棟師長のダイバーシティ・マネジメント	近末清美
若手研究	終末期がん患者が穏やかさを見出すための看護援助モデルの構築	松野史
研究活動スタート支援	男性不妊当事者の求める心理的支援の実態ー心理的支援体制の構築を目指してー	井口亜由

○研究分担

研究種目［14件］	研究課題名	分担者名
新学術領域研究	生体夾雑系におけるタンパク質不可逆阻害のための有機化学の開拓と創薬展開	小野眞弓
基盤研究B	特別な支援を要する看護学生への教育力育成プログラムの開発	日高艶子
基盤研究B	長期に渡る戦争による反復的Trauma体験が後年の心身に及ぼす影響に関する調査	秦野環
基盤研究B	実践知を基盤とした「安楽」をもたらす包括的コンピテンシー・プログラムの開発	桃井雅子
基盤研究B	子育て女性を対象とした生活習慣病予防健診の地域啓発プログラムの開発と社会実装研究	眞﨑直子
基盤研究C	看護学生の自己調整学習の特徴ー「自ら学ぶ力」を育成する方略の探索ー	鶴田明美
基盤研究C	自発性を賦活させる熟練看護師の看護実践を支える暗黙知の解明	日高艶子
基盤研究C	看護基礎教育におけるソーシャルスキル獲得のための段階的教育プログラムの開発	日高艶子
基盤研究C	看護基礎教育におけるソーシャルスキル獲得のための段階的教育プログラムの開発	小浜さつき
基盤研究C	労働者のワーク・ファミリー・コンフリクト、職場環境と健康関連QOLとの関連	眞﨑直子
基盤研究C	新人訪問看護師が「ひとりで訪問できる」ために必要な看護実践能力の評価指標の作成	眞﨑直子
基盤研究C	総排泄腔遺残症患者の母子関係の特徴と家庭における性教育との関連	野口ゆかり
基盤研究C	介護職員として働きながら親を介護している多重介護者のストレスマネジメントの実際	本田歩美
基盤研究C	都市型準限界集落のソーシャルキャピタルコーディネーター育成プログラム開発と評価	田中貴子

地域貢献活動

Withコロナ時代の聖マリア学院大学の地域貢献活動

地域・国際連携センター　小浜 さつき

新型コロナウイルスの感染が拡大してから早いもので丸2年が経過しようとしています。聖マリア学院大学では、カトリックの愛の精神、奉仕の精神に基づくボランティア活動を推進し、「地域に開かれた大学」として、グローバル・グローカルな地域貢献活動を推進して参りました。しかし、このたびの新型コロナウイルスの感染拡大により、人とのかかわりが大きく制限されました。学生の皆さんはもちろん、今まで深く交流してきた久留米市内の地域住民の皆様、ご入院中の患者様、医療者の皆様との交流も制限され、非常にもどかしい時間が続きました。

しかし、この状況は新たな方法を編み出すきっかけになっています。センターの会議では、センター長のご支援のもと、「教職員一丸となり、新しい活動の展開を」をモットーに、知恵を絞って地域貢献活動を発展させています。今回は、新しい方法に進化した3つの活動をご紹介します。

1　公開講座について

2020年は一時的にオンライン・開講回数を減少した対応となりましたが、2021年度より対面とオンラインのハイブリッド方式とし、例年通り6回の講座開講へと発展しました。本年度は、「コロナ禍をよりよく生きる」をテーマに毎回50名程度の参加者の方に受講を頂いております。新しい方法での公開講座の開講が定着しつつあります。

2　まちなか保健室 ほっとステーションマリア

久留米市内に教職員・学生が出向き地域住民の健康を支援する活動として開かれていた「まちなか保健室ほっとステーションマリア」の活動も中止を余儀なくされました。2021年10月より、対面の公開講座を再開したことに伴い、講座終了後に月1回の健康相談を一部再開しております。地域の皆様からは、「ほっとステーションはぜひとも継続を」という強いご要望を頂いており、継続に向けて討議を継続しております。

3　クリスマスキャンドルサービス

新型コロナウイルス拡大前は、例年聖マリア病院で行われるクリスマスキャンドルサービスへ参加させて頂き、患者様のもとをご訪問し聖歌をお届けしていました。クリスマスキャンドルサービスも2020年度より中止を余儀なくされました。本年は中止2年目を迎え、「歌声を届けられないのであれば、メッセージを届けよう」と考え、クリスマスカードの作成をご提案しました。学生と教職員の多くのご協力により、2週間の期間で合計1070枚のクリスマスカードが完成しました。作成したカードはキャンドルサービスでご訪問していた聖マリア病院・聖マリアヘルスケアセンターにご入院中の患者様、メゾンマリアご入居中の利用者様へ、お届けすることができました。「心のこもったカードを頂いてとても嬉しかった」と皆様から喜んで頂けたようでした。

以上のように、新しい活動展開は、少しずつ発展し、定着しつつあります。今後も、感染予防を継続しながら、コロナ禍で新たに生じた経済的課題、心身を含めた健康課題をかかえた皆様のお力になれるように、地域貢献活動も学生・教職員が一丸となり努力して参りたいと思います。地域の皆様のご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

教務課・学生課からのお知らせ

在学生、並びにご家族のみなさまへ

教務課からの各種お知らせについて

在学生並びにご家族の方に対し、単位認定試験の結果（再試験対象となる科目の有無）、成績通知書等をお届けしております。学生の皆さんにとっては既に周知の内容もあるかと思いますが、ご家族の皆さまにとりましても、大学生活や学修に関する情報を共有するものとして活用いただければ幸いです。

「保健師」国家試験受験について（保健師コースの履修について）

本学では、2012年度入学生より「選択制」となっております。保健師国家試験の受験資格を得るためには、看護学部卒業に必要な単位数に加え、3年次以降に開講される「公衆衛生看護学」に関する所定の科目の単位を修得する必要があります。保健師コース履修を希望する場合は、2年次後期に申込み手続きを行い、学内選考により履修者を決定します（学生の皆さんには選考試験の概要並びに選考日等詳細については既に説明を終えています）。なお、保健師コース履修には、課程履修費として、別途80,000円が必要になります（平成29年度履修者より適用）。

大学での履修について

科目の履修に際しては、特定の科目については履修要件があることや（※）、上級学年に進級するための要件（進級要件）があること、卒業までに要する科目や単位数（卒業要件）が定められていることなど、予め知っておくべき重要な事項があります。これらは、年度始めに配布する「履修の手引き」に明記されていますので、学生の皆さんは、履修ガイダンスに参加することはもちろんですが、自ら履修に関する情報を収集し、把握するように努めることも必要です。なお、カリキュラム改正等に伴い、履修に関する諸規程も改正となることがあります。入学年度によって適用する規程が異なることがありますので、不明な点が生じた場合は教務課へお尋ねください。【※:基盤臨床系科目や各論実習科目を履修するためには、各々の科目の履修要件（例:科目Bを履修するためには科目Aの試験に合格していることが必要）などを満たす必要があります。】

本学の奨学金制度について

詳細につきましては学生課までお問い合わせください。

☎0942-50-0222

特待奨学金

金額:半期授業料または半期授業料の半額
（令和4年度より）
返還義務:なし　採用人数:若干名

子弟等奨学金

金額:入学金相当額の半額
返還義務:なし

緊急時奨学金

金額:当該学期の学納金相当額を上限
返還義務なし　採用人数:若干名

雪の聖母会聖マリア病院 聖マリア奨学金

金額:年間の授業料相当額を上限
返還義務:卒業時に一括返還※
貸与期間:修業年間を上限　採用人数:若干名

※聖マリア病院へ就職した場合は、給与より返還

編集後記

3月は、巣立ちの季節を迎えます。

4年生の皆さんは、仲間とともに過ごした学生生活でたくさんの経験や思い出ができたことと思います。

学修の面では、コロナウイルス感染拡大に伴い、初めてのリモート授業など様々な出来事に直面しながらも多くを学び修得されたことも経験の一つではないでしょうか。

渡辺和子先生の『置かれた場所で咲きなさい』という著書があります。これは、与えられた場所で我慢しなさい、耐えなさいということではなく、置かれた場所で諦めず最善を尽くすことで、幸せになりなさい。きっとあなたとあなたの周りをも幸せにするから。という意味が込められているそうです。

これからの人生で幾多の困難が待ち受けているかもしれません。その時は、学生生活を通して経験したことを生かし、あなたらしく咲いていくことを切に願っています。

St.Mary's College
聖マリア学院大学

2022年3月発行 聖マリア学院大学キャンパスレター［マドンナ］
発行／聖マリア学院大学　〒830-8558 福岡県久留米市津福本町422
TEL.0942(35)7271　FAX.0942(34)9125

聖マリア学院大学　検索

※本誌掲載の写真・図版・記事などの無断使用・転載・複製を禁じます。

MOBILE SITE
モバイルサイトは
こちらから